

## 桐生が岡動物園・遊園地の園内施設拡充 並びに周遊観光施策の推進について（継続）

桐生が岡動物園は昭和28年の開園以来、子供たちはもとより大人にも愛され親しまれ、動物に接することによる命の大切さが自然に身に付くなど、情操教育の場にもなっていました。

また、隣接する桐生が岡遊園地は、数々の大型遊器具・小型乗物を有し、その利用料金は最高でも200円と、大変リーズナブルな料金体系となっており、いずれの施設も桐生市内はもとより、広く関東エリアからも多くの方が来園される、桐生市を代表する観光スポットの一つとなっています。

市外からの更なる誘客を図るために、下記事項について要望いたします。

1. 開園以来数十年の年月が経過し、園内の遊器具や獣舎等の施設が老朽化していることから、新たな遊器具の設置・獣舎の改築・新たな動物の購入等、園内施設の拡充を図るとともに、維持管理費プールの手段としての入場料有料化の検討。
2. 市外からの来園者が、桐生新町重要伝統的建造物群等の市内観光スポットを周遊したくなるような魅力ある観光施策の推進。

### 桐生市からの回答

#### 1について

動物園の獣舎、遊園地の遊器具につきましては、施設の老朽化により全体として更新など検討すべき時期に入っているものと認識しております。

動物園では「ふるさと桐生応援寄附金（ふるさと納税）」を活用して、展示施設の改修、案内板やベンチの設置などの園内整備を行っております。

また、新規動物については、既存の獣舎を有効利用し、他園との動物交換などにより、新たな動物の展示ができるよう努めているところであります。

遊園地の大型遊具につきましては設置後、20年以上経過したものが多く早期に更新することが課題となっておりますが、現在のところ定期検査及び保守点検、探傷検査を実施し、遊具の長寿命化を図っております。

桐生が岡動物園・遊園地の園内施設の拡充につきましては、「桐生市歴史的風致維持向上計画」の重点区域に桐生が岡公園の一部が含まれるため、桐生が岡公園（動物園・遊園地）と桐生新町伝統的建造物群保存地区の相互誘導や再整備計画など、総合的な検討を進めていきたいと考えております。

なお、入園の有料化につきましては、「有料化の是非」など市民アンケートを実施し、その結果を踏まえ、引き続き研究してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 都市整備部公園緑地課公園管理係

## 2について

桐生が岡動物園・遊園地は、県外からも多くの来園客のある、本市を代表する観光スポットであり、同園に来られた市外・県外の観光客をまちなかにも誘導し、本市の魅力を満喫していただく観光施策は極めて重要であると考えております。

本市では低速電動コミュニティバス e COM - 8 (MAYU) を活用し、遊園地・動物園から重伝建地区への導線を作ることで、来園者のまちなか周遊を促進しているほか、平成30年度からは、新桐生駅から伝建地区へ誘導するコースを新設しました。

また、飲食店や土産店の紹介、市内周遊のモデルコースを掲載したパンフレットの配布や旅行雑誌などへの掲載など、観光客の滞在時間を増やすための施策を実施しています。

今後も、来園者が市内観光をしやすい環境を整えると同時に、観光客の満足度が高まるように、既存の観光資源のブラッシュアップと魅力ある観光施策の立案に取り組んでまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部観光交流課観光・物産係